(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7507127号
(P7507127)

(45)発行日　令和6年6月27日(2024.6.27)

(24)登録日　令和6年6月19日(2024.6.19)

(51)国際特許分類
Ａ４５Ｃ　11/34　(2006.01)

ＦＩ
Ａ４５Ｃ　11/34　１０２Ｃ
Ａ４５Ｃ　11/34　１０２Ａ

請求項の数　3　（全8頁）

(21)出願番号　特願2021-102171(P2021-102171)
(22)出願日　令和3年6月21日(2021.6.21)
基礎とした実用新案登録
実用新案登録第3225326号
原出願日　令和1年12月16日(2019.12.16)
(65)公開番号　特開2021-166727(P2021-166727A)
(43)公開日　令和3年10月21日(2021.10.21)
審査請求日　令和4年12月1日(2022.12.1)

(73)特許権者　591287864
株式会社レイメイ藤井
熊本県熊本市西区上熊本１丁目２番６号
(74)代理人　100093104
弁理士　船津 暢宏
(72)発明者　柏木 達也
兵庫県加古郡稲美町草谷９５１番地の１
大山株式会社内
審査官　村山 達也

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　ペンケース

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

ペンケースであって、

長方形の底面部と、前記底面部の一方の長辺に接続する正面部と、前記底面部の他方の長辺に接続する背面部と、前記底面部の短辺に接続する側面部とを備える箱状の本体と、

前記底面部と同等の長方形で、前記背面部の上端辺に直角に接続して固定されると共に前記背面部の下端辺を支点にして前記背面部と共に開閉し、前記本体の開口部を覆う蓋部と、

前記正面部を覆うように前記蓋部に接続する覆い部と、

前記蓋部の短辺と前記背面部の短辺とを接続する三角形状の接続部と、

前記側面部と前記接続部を接続するマチ部とを有し、

前記蓋部が閉じられると、前記接続部が前記側面部の上側の長辺を覆って、前記覆い部に設けられたマグネットが前記正面部に設けられたマグネットと接着して固定され、

前記側面部において、前記マチ部に接続する辺が前記背面部の側に傾斜する傾斜辺であり、前記マチ部が、前記接続部の三角形状の最も長い辺と前記側面部の傾斜辺とを接続することを特徴とするペンケース。

【請求項２】

本体の内側に正面部に並行に仕切部が設けられ、

当該仕切部は、着脱可能に面ファスナーで取り付けられることを特徴とする請求項１記載のペンケース。

【請求項３】
蓋部は、内側面にポケットを備えたことを特徴とする請求項１又は２記載のペンケース。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ペンケースに係り、特に、蓋部を開けたときに、蓋部を直立させて９０°開いた状態を維持できるペンケースに関する。
【背景技術】
【０００２】
[先行技術の説明]
従来のペンケースは、箱形状の長辺の側面に蓋が取り付けられており、その長辺を支点に蓋が開閉する構造のものがあった。
尚、蓋と本体はマグネットの止め具で固定されるようになっている。
【０００３】
[関連技術]
尚、関連する先行技術としては、意匠登録第１６２４２６３号公報「ペンケース」（特許文献１）がある。
特許文献１には、箱状の長辺の側面に蓋が接続されるペンケースが記載されている。尚、本体の開口部と蓋の開口部には金具が用いて大きく開く構造となっている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【文献】意匠登録第１６２４２６３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、従来のペンケースでは、箱状の本体の収納部に文房具を収納するものの、蓋部が安定的に直立するものではないため、蓋部が反対側まで開いて場所を取ってしまい、使い勝手がよくないという問題点があった。
【０００６】
尚、特許文献１には、金具により蓋部が直立する構成が示されているが、本体が箱型でなく、開口部に金属を用いているため、製造工程が複雑になり、金属を使用しないで軽く容易に製造できるペンケースについては記載されていない。
【０００７】
本発明は上記実状に鑑みて為されたもので、蓋部を開いたとき、背面部が底面となって蓋部を直立させ、蓋部を９０°開けた状態に維持でき、使い勝手を向上させることができるペンケースを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記従来例の問題点を解決するための本発明は、ペンケースであって、長方形の底面部と、底面部の一方の長辺に接続する正面部と、底面部の他方の長辺に接続する背面部と、底面部の短辺に接続する側面部とを備える箱状の本体と、底面部と同等の長方形で、背面部の上端辺に直角に接続して固定されると共に背面部の下端辺を支点にして背面部と共に開閉し、本体の開口部を覆う蓋部と、正面部を覆うように蓋部に接続する覆い部と、蓋部の短辺と背面部の短辺とを接続する接続部と、側面部と接続部を接続するマチ部とを有し、蓋部が閉じられると、接続部が側面部の上側の長辺を覆って、覆い部に設けられたマグネットが正面部に設けられたマグネットと接着して固定されることを特徴とするペンケース。
【０００９】
本発明は、上記ペンケースにおいて、本体の内側に正面部に並行に仕切部が設けられ、

仕切部が、着脱可能に面ファスナーで取り付けられることを特徴とする。
【００１２】
本発明は、上記ペンケースにおいて、蓋部が、内側面にポケットを備えたことを特徴とする。
【発明の効果】
【００１３】
本発明によれば、長方形の底面部と、底面部の一方の長辺に接続する正面部と、底面部の他方の長辺に接続する背面部と、底面部の短辺に接続する側面部とを備える箱状の本体と、底面部と同等の長方形で、背面部の上端辺に直角に接続して固定されると共に背面部の下端辺を支点にして背面部と共に開閉し、本体の開口部を覆う蓋部と、正面部を覆うように蓋部に接続する覆い部と、蓋部の短辺と背面部の短辺とを接続する接続部と、側面部と接続部を接続するマチ部とを有し、蓋部が閉じられると、接続部が側面部の上側の長辺を覆って、覆い部に設けられたマグネットが正面部に設けられたマグネットと接着して固定されるペンケースとしているので、蓋部を開いたとき、背面部が底面となって蓋部を直立させ、蓋部を９０°開けた状態に維持でき、蓋部を閉じたとき、接続部が側面部の一部を覆い、覆い部が正面の一部を覆ってマグネットで固定でき、開閉が容易で使い勝手を向上させることができる効果がある。
【図面の簡単な説明】
【００１４】
【図１】本ペンケースの正面説明図である。
【図２】本ペンケースの平面説明図である。
【図３】本ペンケースの右側面説明図である。
【図４】本ペンケースの開いた状態の右側面説明図である。
【図５】本ペンケースの本体内側を示す説明図である。
【図６】本ペンケースの開いた状態の斜視概略図である。
【発明を実施するための形態】
【００１５】
本発明の実施の形態について図面を参照しながら説明する。
［実施の形態の概要］
本発明の実施の形態に係るペンケース（本ペンケース）は、長方形の底面部と、底面部の一方の長辺に接続する正面部と、底面部の他方の長辺に接続する背面部と、底面部の短辺に接続する側面部とを備える箱状の本体と、底面部と略同等の形状の長方形で、背面部の上端辺に直角に接続して固定されると共に背面部の下端辺を支点にして開閉する蓋部と、側面部と蓋部を接続するマチ部とを有するものとしているので、蓋部を開いたとき、背面部が底面となって蓋部を直立させ、蓋部を９０°開けた状態に維持でき、使い勝手を向上させることができるものである。
また、本ペンケースは、開口部に金具を使用せず、軽量で製造工程が容易でコスト低減できるものとなっている。
【００１６】
［本ペンケース：図１～６］
本ペンケースについて図１～６を参照しながら説明する。図１は、本ペンケースの正面説明図であり、図２は、本ペンケースの平面説明図であり、図３は、本ペンケースの右側面説明図であり、図４は、本ペンケースの開いた状態の右側面説明図であり、図５は、本ペンケースの本体内側を示す説明図であり、図６は、本ペンケースの開いた状態の斜視概略図である。
【００１７】
本ペンケースは、箱状の本体１０と、蓋部１１とで基本的に構成され、蓋部１１が本体１０の上部を覆うように設けられる。
本体１０は、長方形の底面部１４と、その長辺に接続する正面部１２ａ，背面部１２ｂと、その短辺に接続する右側面部１３ａ，左側面部１３ｂとを備えている。

そして、蓋部１１は、底面部１４と略同等の形状の長方形であり、背面部１２ｂの上端辺に直角（９０°）で接続して固定され、背面部１２ｂの下端辺を支点として開閉のための回転動作が為される。つまり、背面部１２ｂも下端辺を支点として直角（Ｌ字形状）を維持したまま蓋部１１と共に回転する。

【００１８】

［本ペンケースの正面：図１］

本ペンケースの正面は、図１に示すように、箱状の本体１０の正面部１２ａと、右側面部１３ａと、左側面部１３ｂとが現れている。右側面部１３ａと左側面部１３ｂとをまとめて「側面部１３」と記載することがある。

また、蓋部１１には、正面部１２ａの一部を覆う覆い部１１ａが設けられ、覆い部１１ａの中央にマグネット部１１ｂが取り付けられている。

【００１９】

［本ペンケースの平面：図２］

本ペンケースの平面は、図２に示すように、蓋部１１と、蓋部１１の短辺と背面部１２ｂの短辺に接続する右接続部１５ａ，左接続部１５ｂとが現れている。右接続部１５ａと左接続部１５ｂとをまとめて「接続部１５」と記載することがある。

接続部１５ａは、右側面部１３ａの一部を覆い、接続部１５ｂは、左側面部１３ｂの一部を覆うものとなっている。

【００２０】

［本ペンケースの右側面：図３］

本ペンケースの右側面は、図３に示すように、本体１０に対して蓋部１１が覆い被せられており、正面部１２ａ，背面部１２ｂと、右側面部１３ａと、底面部１４と、覆い部１１ａと、接続部１５ａとが現れている。

【００２１】

接続部１５ａは、右側面１３ａの一部を覆い、蓋部１１の短辺と背面部１２ｂの短辺を接続しており、三角形状となっている。この三角形状は、蓋部１１と背面部１２ｂとが接続する部分がほぼ直角の直角三角形となっている。

尚、本ペンケースの左側面も右側面と同様の構成となっている。

【００２２】

［本ペンケースの開いた状態の右側面：図４］

本ペンケースの開いた状態の右側面は、図４に示すように、右側面部１３ａが背面部１２ｂ側において斜め方向にカットされた傾斜辺を有する台形状の形状となっている。

そして、背面部１２ｂが底面部１４と一直線となって、蓋部１１が開いた状態で、三角形状の接続部１５ａの最も長い辺と右側面部１３ａの傾斜辺とが右マチ部１６ａで接続されている。

【００２３】

図４でわかるように、背面部１２ｂと蓋部１１は、約９０°の直角を維持したＬ字形状となっており、底面部１４の長辺の端辺と背面部１２ｂの下側の端辺の接続部分を支点として本ペンケースの開閉が行われる。

尚、本ペンケースの開いた状態の左側面も右側面と同様の構成となっている。

右マチ部１６ａと左マチ部１６ｂとをまとめて「マチ部１６」と記載することがある。マチ部１６は、本体１０内に畳み込まれるものであり、柔らかい素材を用いている。

【００２４】

［本ペンケースの本体内側：図５］

本ペンケースの本体内側は、図５に示すように、右側面部１３ａの正面部１２ａ側に面ファスナー１７ａが形成され、左側面１３ｂの正面部１２ａ側に面ファスナー１７ｂが形成されている。

面ファスナー１７ａ，１７ｂをまとめて「面ファスナー１７」と記載することがある。

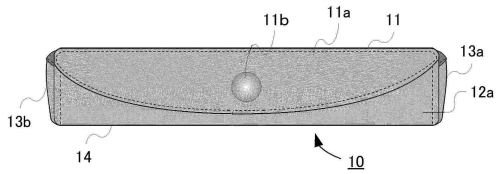
面ファスナー１７は、本体１０の内側に向けて接着面が設けられている。

【００２５】

そして、本体１０の内部を正面部１２ａ及び背面部１２ｂと並行に仕切る仕切部１８が設置される。
仕切部１８は、コの字形で、側面部１３に対応して折り曲げられた部分に面ファスナー１７に対応する面ファスナーの接着面が形成されている。
仕切部１８は、面ファスナーにより着脱可能であり、区切って収納する必要がなければ、取り外して使用する。
【００２６】
［本ペンケースの開いた状態の斜視図：図６］
本ペンケースの開いた状態の斜視図を図６に示しており、正面部１２ａの中央にマグネット部１２ｃが設けられ、覆い部１１ａの中央に設けられたマグネット部１１ｂと接触して固定されるようになっている。
【００２７】
本体１０の内部は、仕切部１８で仕切られており、２つの収納部を形成している。
また、蓋部１１の裏面には、ポケット部１９が形成されている。
ポケット部１９は、図６の上側が開口しており、小物、メモ等を挿入して保持できるものである。ポケット部１９は、収納品を見易くするためにネット素材としてもよい。
【００２８】
［実施の形態の効果］
本ペンケースによれば、長方形の底面部１４と、底面部１４の一方の長辺に接続する正面部１２ａと、底面部１４の他方の長辺に接続する背面部１２ｂと、底面部１４の短辺に接続する側面部１３とを備える箱状の本体１０と、底面部１４と同様の長方形で、背面部１２ｂの上端辺に直角に接続して固定されると共に背面部１２ｂの下端辺を支点にして開閉する蓋部１１と、側面部１３と蓋部１１を接続するマチ部１６とを有するものとしているので、蓋部１１を開いたとき、背面部１２ｂが底面となって蓋部１１を直立させ、蓋部１１を９０°開けた状態に維持でき、使い勝手を向上させることができる効果がある。
また、本ペンケースによれば、本体１０及び蓋部１１の開口部に金具を使用せず、軽量化したものであり、更に製造工程を容易にし、コストを低減できる効果がある。
【産業上の利用可能性】
【００２９】
本発明は、文房具を分類して収納でき、蓋を開いたときに本体が傾くことを防止できるペンケースに適している。
【符号の説明】
【００３０】
１０…本体、 １１…蓋部、 １１ａ…覆い部、 １１ｂ…マグネット部、 １２ａ…正面部、 １２ｂ…背面部、 １２ｃ…マグネット部、 １３ａ…右側面部、 １３ｂ…左側面部、 １４…底面部、 １５ａ…右接続部、 １５ｂ…左接続部、 １６ａ…右マチ部、１６ｂ…左マチ部、 １７ａ…右面ファスナー部、 １７ｂ…左面ファスナー部、 １８…仕切部、 １９…ポケット部

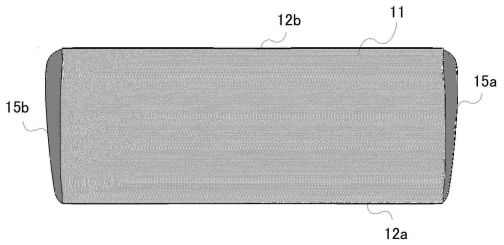
【図面】

【図１】



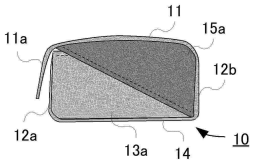
【図1】本ペンケースの正面説明図

【図２】



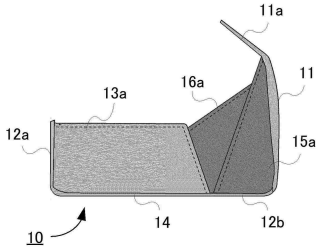
【図2】本ペンケースの平面説明図

【図３】



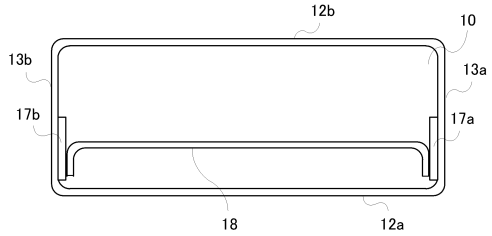
【図3】本ペンケースの右側面説明図

【図４】



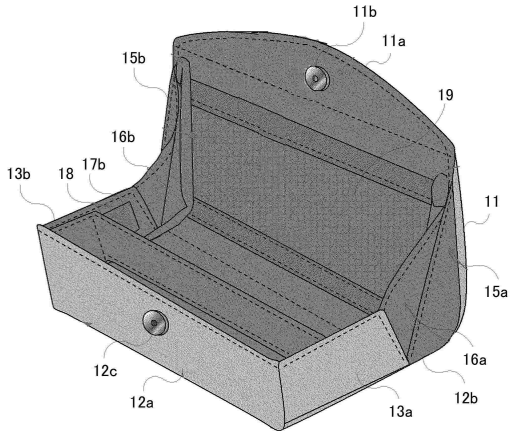
【図4】本ペンケースの開いた状態の右側面説明図

【図５】



【図5】本ペンケースの本体内側の説明図

【図６】



【図6】本ペンケースの開いた状態の斜視概略図

フロントページの続き

(56)参考文献 登録実用新案第３１２３３３７（ＪＰ，Ｕ）
特開２０１８－１４８９７０（ＪＰ，Ａ）
特開２０１９－０５１３６１（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３０７３７７７（ＪＰ，Ｕ）
米国特許第０６０２１８９１（ＵＳ，Ａ）
登録実用新案第３２１９７１９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｃ １１／３４